



# あつまで I LOVE ATSUMA いきる。

社会教育主事  
小田島 美雪さん（34歳）

一学校と地域をつなぐ  
パイプ役に

小田島さんは大学卒業後、北海道帯広養護学校に4年勤め、この春に厚真町へ。異動を聞いたとき「厚真という地名は知っているけど、行ったことはないなあ」と思ったそう。現在は、主に放課後子ども教室のスタッフと一緒に、町内の小学校へ出向いて活動しながら町の子どもたちを知ることから始めているとのこと。厚真の子どもたちの印象は「素朴で素直な子が

社会教育主事として新たなスタートを切った小田島さん。「養護学校に勤めていたときから行事を担当することが好きだったので、町の皆さんと一緒に楽しい事業を計画したいです。また、地域の方たちを先生として招いて授業のサポートやボランティアをお願いし、学校と地域をつなぐ『学校支援地域本部事業』や今後、新しく始める予定の『マイユーティ・スクール』を担当するので、まず地域の方々とたくさん関わって、厚真町なりでは良さを開拓していきたいです」

「多じる感じにならなかつたが、先生や町内の方が協力して、町ぐるみで教育に力を入れて、いるのが伝わります」と話す。趣味は、4年ほど前から始めた登山。「山には年に2～3回行っていて、今までに雌阿寒岳や旭岳に登ったことがあります。山に登ったときの爽快感が好きですね。町内の方からもお誘いいただいたので、一緒に山に登ってみたいですね」とのこと。また、食べ歩きが好きで、「厚真のおいしいものを食べ歩くことも楽しみの一つ」と笑みをみせる。

## ぼうさいコラム

Disaster Management Column

Vol.14 熊本地震の避難所運営について

4月14日21時26分に発生した地震に端を発する、「熊本地震」という新たな災害が発生してしまいました。繰り返す大きな地震に伴って建物被害が拡大し、自宅や避難所で過ごせなくなつた方が車の中で避難生活を送ることで健康被害が広がっています。また、余震や雨に伴う二次災害も懸念される状況です。

先日、熊本市・益城町・西原村に行つきました。役場の広い施設にも避難者の姿があるような状況で、スーパーやコンビニなどの駐車場には車中泊の姿が見られました。運動場にテント村が広がっているところもありました。ある避難所では、女性が炊き出し当番をしていたのですが、炊き出しと家の片付けで女性の負担が大きくなってしまい、ボランティアがサポートに入っているというケースも聞きました。避難生活の長期化が予想される中、長期的な支援も必要とされている様子がうかがえました。

厚真町で今年度から活用していく防災教材「HUG（避



さだいけ ゆき  
定池 祐季  
東京大学大学院情報学環  
総合防災情報研究センター(CIDIR)  
特任助教

剣淵町出身。北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（文学）。北海道大学助教を経て現職。専門は、災害社会学、防災教育

北海道南西沖地震を奥尻島で経験、災害復興と地域防災に関する研究に取り組むほか、各地で防災教育活動を展開している。2014年より厚真町防災アドバイザー。

「難所運営ゲーム」厚真版は、避難所運営を模擬体験しながら、避難所運営のあり方と、ふだんからできる災害への備え（家庭の備え、地域の助け合いなど）について考える教材です。こういった教材を使いながら、行政、住民、ボランティアなど、様々な立場から将来の災害に備えていく必要性を痛感していくま

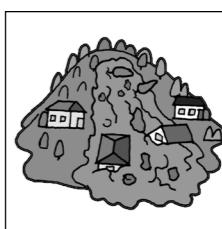
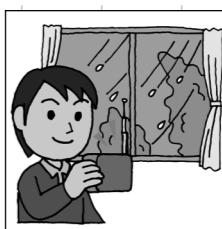
>> 土砂災害について

気象台では、大雨により重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合に「大雨警報」を発表しています。さらに土砂災害の危険が高まったときに、北海道と気象台が共同で「土砂災害警戒情報」を発表しています。

そこで私たち一人ひとりが土砂災害から身を守るために知っておくべきこととして

- (1)今いる場所が「土砂災害危険箇所」かどうか確認する  
(2)雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意する  
(3)土砂災害警戒情報が発表されたら早めに避難する

また毎年6月1日～30日は「土砂災害防止月間」です。自分の地域の危険な場所を確認したり、避難場所までの経路を歩いてみたりするなど、3つのポイントを考えながら万が一の事態に備えておきましょう。



問い合わせ先  
室蘭地方気象台 ☎0143-22-4249